

平成13年度環境ホルモン調査結果の概要について

1 調査の目的

人などの内分泌作用を攪乱するおそれがある外因性内分泌攪乱化学物質（いわゆる環境ホルモン）について、県内における環境中の濃度の実態把握及びデータの集積を目的として調査を実施しました。

2 調査機関

調査は、福島県、福島市、郡山市及びいわき市が行いました。

3 調査内容

調査は、大気、水質、底質、地下水、廃棄物処分場周辺の水質（放流水・処理水、周辺地下水）について行いました。

4 調査結果の概要

（1）大気

工業地域、住居地域、郊外の6地点11物質の調査を実施しました。
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル等5物質が検出されました。

（2）水質

河川、湖沼、海域の15地点57物質の調査を実施しました。
ポリ塩化ビフェニール類、ビスフェノールA等の7物質が検出されました。

（3）底質

河川、湖沼、海域の15地点12物質の調査を実施しました。
ポリ塩化ビフェニール類、アルキルフェノール等9物質が検出されました。

（4）地下水

7地方振興局の14地点7物質の調査を実施しました。
いずれの物質も検出されませんでした。

（5）水生生物

河川、海域の4地点12物質の調査を実施しました。
ポリ塩化ビフェニール類、トリブチルスズ等7物質が検出されました。

（6）廃棄物最終処分場の周辺地下水及び放流水等

廃棄物最終処分場10施設20地点について、各7物質の調査を実施しました。
アルキルフェノール、ビスフェノールA等4物質が検出されました。

検出された値は、過去の国の調査結果の範囲内でした。

なお、検出された17物質の名称と主な用途は、別紙のとおりです。

別紙

平成13年度調査において検出された化学物質と主な用途

No	SP EE D' 98 No	化学物質名	検出媒体						主な用途
			大気	水質	底質	地下水	水生生物	処分場	
1	2	ポリ塩化ビフェニール類							熱媒体、ノカ-ボン紙、電気製品
2	5	ペンタクロロフェノール							防腐剤、除草剤、殺菌剤
3	7	2,4-ジクロロフェノキシ酢酸							除草剤
4	33	トリブチルスズ							船底塗料、漁網の防腐剤
5	34	トリフェニルスズ							船底塗料、漁網の防腐剤
6	36	アルキルフェノール (ノニルフェノールなど)							界面活性剤の原料、分解生成物
7	37	ビスフェノールA							樹脂の原料
8	38	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル							プラスチックの可塑剤
9	39	フタル酸ブチルベンジル							プラスチックの可塑剤
10	40	フタル酸ジ-n-ブチル							プラスチックの可塑剤
11	43	ベンゾ(a)ピレン							(非意図的生成物)
12	44	2,4-ジクロロフェノール							染料中間体
13	45	アジピン酸ジ-2-エチルヘキシル							プラスチックの可塑剤
14	-	カドミウム							顔料、電池、合金、メッキ
15	-	鉛							鉛管、蓄電池、電線被覆、はんだ
16	-	水銀							乾電池、蛍光灯、体温計、触媒
17	-	17 - エストラジオール							人畜由来ホルモン